

令和2年度 伊波中学校 学校評価書

学校関係者評価委員：山城博志・濱久地博之・平良優希・加藤直子・石川栄・石嶺哲也・石川航・山城美佐枝

学校長氏名：宇江城 聖子 印

(各アンケート項目に対する総合評価基準) A:肯定的評価90%以上 B:AC以外 C:肯定的評価70%未満

大項目	評価項目及び評価指標	7月アンケート						12月アンケート						自己評価		学校関係者評価	
		職員		生徒		保護者		職員		生徒		保護者		評価説明	評価	評価説明	評価
		値	評	値	評	値	評	値	評	値	評	値	評				
I 学校経営の充実	1 家庭・地域に開かれた信頼される学校づくり	100.0%	A	82.9%	B	80.8%	B	100.0%	A	84.9%	B	82.3%	B	○学校便り等を全家庭・全自治会に配布し、生徒の活動の様子や学校の取組等について情報を発信している。また、じんじんメールやホームページには連絡事項や行事予定等を掲載し、保護者の来校につなげている。 ▼地域生徒会結成式や地域交流会、地域人材や地域素材を活用した授業が十分にできなかった。	B	○中学校で定期的に発行されており、その中で学校の取組や経営方針、生徒の活躍等が詳細に紹介され、家庭・地域に学校の情報が細やかに発信されている。地域の方も学校を身近に感じることができている。 ▼コロナ禍で家庭・地域と協力した学校づくりが進められなかったことは、仕方ないことと思われる。	B
	2 安全で安心な学校づくり	100.0%	A	78.2%	B	67.6%	C	87.5%	B	79.2%	B	68.3%	C	○防災計画に基づいた避難経路の確認や避難訓練の実施、視聴覚教材を使った事前指導、備蓄食糧、緊急時取り除きの家庭調査票への明記等、防災教育に努めた。 ○清掃の仕方を全校で統一し見える化した。生徒会専門委員会の「教室きれいコンテスト」等、美化活動を工夫している。 ▼月始めの「ハッピーライフチェック」等、アンケート実施後の対応を生徒に寄り添って確実に行うことが必要。(複数人対応等)	B	○緊急時の対応や校内の消毒等安全指導・安全管理も実施されており評価できる。全校で統一した清掃の手順書や生徒主体の「教室きれいコンテスト」等工夫が主体。 △いじめ等に関する生徒の肯定的評価はわずかながら増えている。毎月アンケート等の考察及び個々の事案に全職員一丸となってこれまでに以上に取り組んでいくことで保護者からの理解も増えている。 ▼いじめや不安等への対応について、職員と生徒保護者の評価に差がある。生徒の不安や悩みを和らげる工夫が必要。	B
	3 実践的指導力の向上・服務等	100.0%	A	88.5%	B	97.2%	A	87.5%	B	91.7%	A	96.3%	A	○全員担任制導入により、全職員が共通確認の下で見守りや声かけ等を行っている。	A	○全員担任制の導入により全職員が生徒一人一人に責任を持って対応している。更に研究を進め、先生方の実践的指導力の向上に期待する。 ○生徒のあいさつ(あたり前)のことができています。	A
	10 服装等身だしなみには気をつけている。(職員:研修への積極参加)	100.0%	A	84.3%	B	91.1%	A	100.0%	A	85.6%	B	86.6%	B				
	11 場に応じた言葉づかいをしている。(職員:服務規律遵守)	100.0%	A	84.3%	B	91.1%	A	100.0%	A	85.6%	B	86.6%	B				
	成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○災害に対する心得等、安全に対する意識が高い(92.9%)。 ○身なりを整える、きまりを守る等、規範意識が高い(91.7%)。保護者の意識の高さ(95.8%)が影響している。職員の不祥事もなく、服務規律遵守の意識が高い(100%)。 ▼12月末現在の不登校率が3.90%(14名)、去年より改善しているものの依然として高い。教育相談に対する教員一人一人の意識が高めること、学校が一体となって対応できる校内体制の構築 ▼地域貢献を視点とした活動の実施。 <p>学校関係者評価を受けての課題に対する学校の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校便りやじんじんメール、ホームページ等には、生徒・保護者・地域にとって有益な情報を掲載し、さらに学校の教育活動や取り組み、理解・協力が得られるよう努める。入学説明会やじんじんメール登録を促す等、直接説明する機会を設け登録者を増やすよう努める。 ○地域生徒会も生徒会活動の一部で生徒が主体となって活動するものであることを生徒に意識させ、地域生徒会結成式で自治会ごとに生徒発表の時間を設ける等結成式の持ち方を工夫する。また、地域人材・素材を授業に積極的に活用する。 ○一事徹底(時を守り、場を清め、礼を正す)を継続実施すると共に、次年度の重点を「環境を整える」と設定し、校内の外環境整備、美化活動に取り組む。生徒会美化委員会・ボランティア委員会・各部活動による清掃活動の機能化を図り、美化委員会主催の美化コンテスト等、校舎・教室をきれいに大切にすることを育てていく。 ○不登校生徒の社会的な自立に向けて、関係機関との連携を密に取り組む。 															

大項目	評価項目及び評価指標	7月アンケート						12月アンケート						自己評価		学校関係者評価	
		職員		生徒		保護者		職員		生徒		保護者		評価説明	評価	評価説明	評価
		値	評	値	評	値	評	値	評	値	評	値	評				
II 児童生徒の指導の充実	1 「確かな学力」の向上(知・…子どもの学力の保証)	95.7%	A	69.6%	C	84.9%	B	95.8%	A	70.8%	B	76.2%	B	◎12月生徒アンケートでは、肯定的評価が昨年同時期に比較して大きく改善した。 ○チャームスタートや立腰・黙想等の学習規律と「めあて・まとめ・振り返り」の実施、等の授業スタイルを共通実践し、全職員で授業改善に取り組んでいる。 ○校内学推委員会を週に1回開催し、授業改善推進の計画・評価・改善を図っている。 ○週時程の中に教科部会を位置づけ、授業改善に関する話し合いを行っている。また記録簿を全職員で共有している。 ○全教科で単元テストを導入し、必要に応じて補習・再テストを実施している。分かる・できる授業につながっている。 ▼自分で計画を立て、主体的に学習に取り組むことに課題 ▼授業の中で自分の考えを発表したり、他の考えから自分の考えを深めることが十分でない。 ▼教室内の整備や各自の机、ロッカーのプリント・学習資料の整理整頓ができていない。	B	○学力向上という目標に向けて、具体的な施策が打ち出されている。職員「生徒のために」という思いは必ず伝わる。なぜそれが必要なのか、伝え続けて欲しい。 ○全教科で単元テストを導入し、補習指導も地域人材を活用しながら丁寧に実施している成果が確かな学力の向上に繋がっている。 ○保護者による評価は芳しくないが、日頃評価を受けている生徒の評価が全体の高いのは、先生方が授業改善に熱心に取り組んでいる証だと思ふ。保護者への説明の機会が増えるたびに理解者が増えていく。 ○昨年の同時期に比べて生徒の評価が改善したことは、めあての確認や振り返り、立腰・黙想等の学習規律の実践や授業改善のための話し合い、単元テスト・補習・再テストの実施等、先生方の努力が功を奏していると思う。確かな学力がつくことは生徒の自信に大きく繋がっている。 ▼忘れ物や整理整頓で保護者の評価が低いももっと厳しく指導して欲しいという意見がもたれないため、今後の指導方法の工夫が必要。	B
	2 健やかな心と体を育む教育充実(徳・体・食)	95.7%	A	74.6%	B	79.5%	B	95.8%	A	80.1%	B	79.9%	B	○全職員によるローテーションTTによる指導を二学期に実施し、道徳科の授業改善に努めた。 ○係と専門委員会を連携した組織を作り、主体的な生徒会活動が展開された。統一された指導内容(当番活動)と全職員による指導が徹底につながった。 ▼学年を超えた交流活動の工夫(特別活動の充実)	B	○講演会も多く、生徒は様々な事に興味を持ち考えることができています。野菜作り等も良い影響を与えています。 ○全員担任制が「養育者」としての自分の意見が言える生徒を育て、その環境を整えて欲しい。 ○コロナ禍で文化祭が中止になったが、各学年で種目を絞ったスポーツフェスティバルを開催することで、生徒が主体となり生き生きと活動できたことが大変素晴らしいと思う。	A
	3 生徒理解に基づいた生徒指導の充実	95.7%	A	80.8%	B	89.7%	B	100.0%	A	89.4%	B	88.4%	B	○週1回の生徒支援部会で共通理解を図り、手立てについて協議が図られている。 ▼生徒一人一人に寄り添い、きめ細やかに対応する相談体制の確立が必要	B	○④の項目について、生徒による評価が高くなっている。相談体制が充実していると感じる。全員担任制の成果がここにも出ていていると感じる。 ▼⑤の項目で、生徒の実感が薄いため、伝え方の工夫が必要 ▼保護者や生徒の意見を聞き取り、他校の良い事例を取り入れることが必要	B
	成果と課題	<p>◎分かる・できる経験を蓄積して、学習効力を形成する。(全教科単元テスト・再テストの実施)</p> <p>◎学校・学年の支持的風土を醸成するための特別活動(話し合い活動等)やSEL・BS、SSTを意図的・計画的に実施する。</p> <p>◎「全員担任制」の特色を生かし、学年職員が協働して生徒の良さを伸ばし(ほめ方の共有)、生徒にとって最適な対応を迅速に行えるようにする。また、保護者の不安を払拭できるよう担任との三者面談後の希望調査を実施し、職員との対話や相談の機会を増やす。</p> <p>◎「考え・議論する道徳」の充実(二期生全職員によるローテーションTT指導による授業実践)</p> <p>◎主体的・対話的で深い学びを視点とする授業改善及び校内研修・教科部会の活性化(伊波中Styleの共通実践)</p> <p>めあて・まとめ・振り返りの確かな実施・自分の考えを書き、話し合い、考え合う活動の実施・発達で分りやすく、思考を深める発問</p> <p>◎学習規律をキチンと教育の充実(中・高生)</p> <p>・チャームスタートの徹底(1分前着席)・始業前の学習用具準備(開いて待つ)・職工の徹底・キャリアパスポートの活用</p>															